

校名：岐阜大学教育学部附属中学校

所在地：〒500-8284 岐阜県岐阜市加納大手町74 電話番号：058-271-0320

記載日：平成28年5月16日

記載者：浅野竜也

記載者役職：教頭

貴校の校風、おおまかな特色について：

昭和29年4月開校以来、生徒一人一人を尊重する民主的で明るく伸び伸びとした雰囲気の中で、互いに助け合い厳しく鍛え合う校風をつくりあげています。

中学校における普遍的な教育の在り方を追求するために、入学者選抜は完全抽選という方法を取りながら、「人間教育」を目指すとともに、教育上の今日的課題を明確にし、独自の研究実践も試みています。また、本校には知的障害者対象の特別支援学級が開校以来各学年で開級され、岐阜大学教育学部附属小学校や岐阜大学とも連携しながら先進的な教育を行っています。

教育実習校であると同時に、先進的な教育実践と教員免許更新制にかかわる教員向けの講座を開設するなど、本校への期待は高い中、明朗、素直で学習活動や仲間との活動に一生懸命取り組む素晴らしい姿が多く見られます。また、仲間を思いやる心を大切に、生徒会によって「附属中学校人権宣言」が採択されています。

生徒、保護者も、職員も本校で学べることに「自信」と「誇り」をもっています。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていません。
- ② スポーツ界では、山脇佳奈氏（体操）坪井保奈美氏（新体操）朝倉健太氏（中日ドラゴンズ）角屋龍太氏（オリックスバファローズ）
芸術家では、日比野克彦氏 がおみえになります。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていません。
- ② 各市町の公立学校の教諭や教頭、校長または、県教育委員会や各市町教育委員会の行政職にて活躍しています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- 本校における柱となる主な学校行事は、球技大会、文化祭、継承会の3つです。球技大会では、班対抗でバレーボールに取り組みます。文化祭では、特別支援学級も含めて15学級が、学級ごとにテーマを設定し、30分～40分間の劇を演じます。継承会では、3年生が培ってきた思いを下級生に伝えるとともに、学年としての財産を発表します。
- 宿泊をとまなう行事としては、1年生で「集団生活を学ぶ少年自然の家1泊2日」、2年生で「職場見学を中心とした東京2泊3日」3年生で「平和を学ぶ沖縄2泊3日」の宿泊研修を行っています。



○ 本校の研究については次のとおりです。

平成28年度研究主題：

新しい時代を生き抜く生徒

- 「汎用的な能力」を育成するカリキュラムの設計-

<要約>

「新しい時代を生き抜く生徒」を主題に掲げ、昨年度より研究1年次をスタートしました。その中で「汎用的な能力」とは、「本校の中学校3年間を通して全教科で育みたい能力」と規定し、その育成を図ってきました。1年次の課題として、教師が各教科で「汎用的な能力」を取り出し定義したものの、共通認識をもって「汎用的な能力」の育成にあたるのが困難であることが分かりました。

そこで今年度は、全職員で共通の視点で指導にあたるため、「汎用的な能力」を発揮している姿を規定し、分類しました。その目指す姿を「個人の時間」は自己の論理を構築する姿の具体、「仲間との時間」では自己の論理と他者の論理を比較し交流する姿の具体としました。また、その姿に迫るために、「指導-評価-改善」が一体となったカリキュラムの設計を行い、実践を積み重ねてきました。今後は、「汎用的な能力」の育成を行う評価を積み重ね、改善点を生徒にフィードバックするとともに、教師の指導改善をし、研究を進めていきます。

<目指す生徒の姿>

◇個人の時間

- ・自ら問題解決に必要な情報を集め整理する。
- ・根拠を付け加えながら、他の可能性を踏まえて考える。
- ・順序良く、立場に応じて考えたり、表現したりする。

◇仲間との時間

- ・他社の考えを聞き、自分の考えと比較し、共通点や相違点をとらえる。
- ・要点を絞ったり、一つにまとめたりして伝える。

<研究仮説と研究計画の構造>

A 目指す生徒の姿を教師-生徒間で共有した上で、
B 教科の本質に根ざした「汎用的な能力」を発揮する授業をデザインし、
C 能力の向上と有用性を生徒にフィードバックするカリキュラムを設計し、
実践を継続すれば、生徒の「汎用的な能力」は育成されるであろう。

<研究内容>

研究内容1 目指す生徒の姿の共有

- 1- (1) 全校研究集会の実施
- 1- (2) 各授業における目指す姿の具体的な例示

研究内容2 汎用的な能力を発揮する授業のデザイン

- 2- (1) 個人の時間
- 2- (2) 仲間との時間

研究内容3 汎用的な能力の向上と有効性のフィードバック

- 3- (1) アンケート調査による継続的な意識調査
- 3- (2) 評価課題の実施と分析



<中間研究発表会（2年次）の日時>

平成28年6月19日（日）8：30～

*詳しくは本校HPにてご確認願います。

○ 昨年度（平成27年度）の中間研究発表会（1年次）の参加者数は約520名でした。

大学関係者・・・・・・・・・・約 30名

県外附属・・・・・・・・・・約 10名

県内一般・・・・・・・・・・約140名

県外一般・・・・・・・・・・約 20名

行政関係者・・・・・・・・・・約 60名

その他・・・・・・・・・・約100名

教員免許更新講習参加者・・・約160名

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

入試選抜された生徒を教育するのではなく、市町の公立学校と同じく誰もが学習できるよう門戸を開き、教育を行っています。そのため、本校での取組や研究を広く公開し、その意義や手法を地域の学校に伝えていくことで、県全体の教職員のスキルアップ、学力の向上に貢献しています。

特別支援学級においても、開校以来完全抽選で生徒を募集していることに加え、教育課程に位置付く作業学習では、印刷、縫製、木工のグループに分かれ、製造から販売までを体験する一貫した学習を行うことで、卒業後の進路を見据えたより実践的な教育を行っています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○ 国立大学の教育学部は、学生に対し教員としての即時的なスキルでなく、教育の理論、教員としての素養を重点に指導することに矜持をもち、その思いは、附属学校も共有しているところと自負しております。そのため、附属学校においての学生の養成に関わっては、教育課程の時数確保が難しい現在においても、大学1年生より教育現場を観察し、教育実習を迎えるまでに相当数の授業を参観できるよう中学校で場を用意しています。また、実習指導においても、学級経営や生徒指導、部活指導など総合的な内容で指導しております。

長期的な視野に立って大学、現場が協力して教員養成をすることが可能となることにより、様々な事案に対応できる教員養成となり、折れない心を持った教員を送り出すことができている。

○ 本校は、地域のモデル校として先進的な教育を行い、情報発信していくことを目指しています。そのため研究内容においては、文科省の求める教育指針に即した研究を行うことが可能で、その体制づくりも速やかに行えます。また、生徒の個性伸張に関しても、他の学校に比べ生徒個々が目指す特技を積極的に支援できる体制を整えているため、個性の伸張が図られ、過去においても、全国レベルの技量を備えた生徒を多く輩出しています。